

♪ 音楽科における学習評価

1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

(1) 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽活動の基礎的な能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の 技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ，音や音楽に対する関心を持ち，主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，解釈したり価値を考えたりして，よさや美しさを味わって聴いている。

2 学習評価の改善のポイント

- 表現の能力を評価するに当たっては，「技能」に関する観点と，表現を創意工夫したり，発想・構想したりする観点とに分ける。また，鑑賞の能力を評価するに当たっては，「知識・理解」に関する観点と，自分なりに評価したり価値を考えたりする能力に関する観点とを一体的に見る。
- 音楽の学習における言語による違いを明確にするために，「表現の技能」を「音楽表現の技能」に改めた。
- 「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」のそれぞれにおいて〔共通事項〕にかかわる評価を行う。現行と同様に音楽的な感受を大切に学習指導とその評価の実施が鍵となる。

3 各観点の評価における配慮事項

(1) 音楽への関心・意欲・態度

学習の対象を明確にし，それに対する関心と主体的な取組の状況を把握する。

(2) 音楽表現の創意工夫

現行の「音楽的な感受や表現の工夫」を踏襲している。音楽的な感受に基づきながら創意工夫をしている状況を把握する。

(3) 音楽表現の技能

特に「音楽表現の創意工夫」の観点で見ると力の育成と関連させながら，音楽表現をするために必要な技能を育成し，歌唱・器楽・創作で表している状況を把握する。

(4) 鑑賞の能力

現行の「音楽的な感受」で見ていた力もこの観点に含めて評価する。音楽的な感受に基づきながら，解釈したり価値を考えたりして，味わって聴いている状況を把握する。

資料情報

- 徳島県立総合教育センター
年間指導計画様式例
(総合教育センターHP → カリキュラムサポート → 中学校音楽)
- 国立教育政策研究所
評価規準の作成のための参考資料
評価方法等の工夫改善のための参考資料
- 文部科学省
言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】